

コロナ禍を超えて4カ月ぶりに東海財界倶楽部開催 ピアニスト吉川純子さんの映画音楽懐かしく

第36回東海財界倶楽部例会は、6月25日午前11時から名古屋東急ホテルで開いた。ピアニストの吉川純子さんを招いて懐かしの映画を演奏とともに振り返った。新型コロナウイルス感染症の拡大が一時落ち着いたとされるものの、参加者全員の検温や着席スタイルでの食事など感染症対策を施し4カ月ぶりの開催となった。

「自粛、自粛で気疲れされている方も多いのではないのでしょうか。少しの時間ですが、音楽とともに懐かしの映画を振り返ってみたいと思います。映画音楽はメロディーを聞くだけで映画のシーンが思い浮かぶほどビジュアルと強く結びついているように思えます。素晴らしいピアノ演奏をお楽しみください」と吉川さんが挨拶し例会が始まった。

ジェームズ・ディーンが主演を務めた「エデンの東」の名曲からスタート。「映画音楽ベストテンをあげるとしたら上位に入る名曲です。曲を聞くだけで映画のワンシーンが思い浮かぶ方も多いのでは」と、吉川さんの解説つき。

イタリアの作曲家ニーノ・ロータが音楽を担当した「太陽がいっぱい」「ロミオとジュリエット」「ゴッドファーザー<愛のテーマ>」に次いでアメリカの作曲家ヘンリー・マンシーニの「ティファニーで朝食を」「酒とバラの日々」「シャレード」「ピンクの豹」と懐かしい名作が次から次へと。オードリー・ヘプバーン主演の「昼下がりの情事」から「魅惑のワルツ」も披露した。このほか、フランスの作曲家フランシス・レイの「男と女」「白い恋人たち」、同じくフランスの作曲家ミシェル・ルグランの「シェルブールの雨傘」「ロシュフォールの恋人たち」も。最後は名作「タイタニック」の主題歌「My Heart Will Go On」で締めくくった。

演奏の合間の吉川さんの解説では、音楽や映画にまつわる楽しいエピソードが盛りだくさん。出席者の皆さんは、配られた演目リストを参考に、各々の心に残る映画の名場面を浮かべ



懐かしの映画音楽を披露する吉川純子さん



参加者は演目リストを見ながら演奏に耳を傾けた



挨拶する名古屋中国春節祭実行委員会の林梅香委員長(中)、庄暁暉副委員長(左)、王勝文事務局長

ながら美しいピアノの調べに酔っていた。

演奏後、名古屋中国春節祭実行委員会の林梅香委員長らが登壇し、2021年1月9日から11日まで開催予定の名古屋中国春節祭について説明。「来年にはこのコロナ騒ぎも一段落しているとの期待を込めて催す計画です。名古屋春節祭の成功に向けて、皆様のご支援、ご協力を賜りますように」と挨拶。

この後、懇親食事会に移り、各テーブルで会員たちは、久しぶりに同倶楽部に集える嬉しさをかみしめながら、コロナ禍での自粛生活の苦労話なども交わしていた。

次回の東海財界倶楽部は名南 M&A 篠田康人社長を招いて8月27日午後6時半からホテルオークラレストラン名古屋で催す予定。